

## 古市焼復元の第一歩を踏み出す

### ～風鈴絵付け・作陶作業に五十数人が参加～

前号でお知らせしていました「古市焼」復元の試みとして、風鈴の絵付けと陶土を使って作品をひねり出す作業が七月二六日（土）にふれあいセンターで行なわれました。

当日は、波賀野新田やその他の地域からの参加者を含めて五十人を越える参加者があり、気温の高いのに加えて、大勢の人の熱気で蒸し暑い中、王地山製陶所の職人さんお二人の指導を受けながら、素焼きの風鈴に思い思いの絵を描いたり、陶土をひねって作陶をしたりしました。

絵付けでは、風鈴が素焼きのために直ぐに水分を吸収してしまい、紙やキヤンバスに絵を描くような具合にはいかず、あらかじめ鉛筆で下絵を描くなど四苦八苦している人もありました。

作陶では、板の様に延ばした陶土を底にして、細長くした土をぐるぐると巻き上げていく、いわゆる「ひも作り」の方法や、陶土の塊をのし棒で伸ばして、葉っぱの模様を描く方法など、それぞれが工夫を凝らしてとりくみました。

これらの作品は、乾燥を待って王地山製陶所のガス窯で焼いてもらい、風鈴は本焼、作陶作品は素焼きになります。



本焼を終えた風鈴は、二十四日盆に、各家の軒先に吊るしてもらってその音色で涼を呼ぶのに使います。

土をひねって作り出した作品は、秋頃に、別途作成する黒竹を材料にした作品台にのせて展示する計画になっています。（具体的には今後検討する予定です。）

また、当時の様子を写真に撮って、絵葉書に仕上げ、古市の皆さんにお配りし、古市を離れて異郷で暮らしているいらつしやる親類縁者の方々に、「二十四日盆には、是非ふるさと古市へ帰って来て下さい。一緒に、古市地蔵盆の一夜を楽しみましょう。」と呼びかけて頂くことにしたいと考えて現在八ガキを作成中です。

いずれ、近々に各ご家庭にお届けしますから、その節はよろしく願います。

絵葉書の件についての詳細は、裏面に掲載しています。



## 波賀野新田でも取り組みが進んでいます

すでに回覧等でご存知下さっていることと思いますが、今回のパワーアップ事業には波賀野新田の自治会も「宿場街道を明るく照らして地域と心の活性を！」をテーマに補助申請をされ、古市と同額の補助金を受けられることになりました。

波賀野新田でも、二十四日盆には地蔵尊を祀られています。古市の様に提灯を吊るしたり、造り物をしたりという様な事もなく、同じ軒続きの街並みで片方は明るく、他方は暗いと言う状態であったことはご存知の通りです。

そこで、波賀野新田でも、二十四日盆には街並みを明るく飾ろうという事で、灯りと緑で街並みを飾る取り組みを進めています。

灯り作りは、七月十三日、コミュニティセンターを会場に、奈良から灯り作家国分由美子さんを招いて、開催されました。

今回作成される灯りは、竹で球形の籠状のものを編み、中に電球を入れたものです。

当日は、古市の人たちなど、波新以外からの参加者も含めて、約五十人の方々が参加され、一所懸命に、薄く割った竹を曲げながら編んでボール状のものを作っていました。

この取り組みの二回目は七月二十七日、日曜日にも開催され、多くの方が作品を仕上げられました。

波賀野新田では、この灯りの他にも、植物を育てて軒先を飾ろうと、花の苗を各戸に配って育ててもらおう取り組みも進められています。

二十四日の地蔵盆には、古市と波賀野新田の街道筋全体が、灯りや様々な花、風鈴の音色等々で、彩られて賑わうことを期待しています。



## 古市に縁のある方へ地蔵祭りへのお誘いを!!

地蔵盆には一人でも多くの方の参加により、一夜の賑わいを実現したいと考えています。そこで、1面の記事の中でも触れましたが、古市焼復元の取り組みの様子を絵葉書にしたものを皆様方にお配りして、古市に縁のあるお子様やご兄弟などをはじめ、今まで古市の地蔵祭りに参加したことのない親類縁者、友人などにも「24日盆には帰省して(古市に来て)一緒に地蔵祭りを楽しみましょう。」と言うメッセージを届けて頂こうと考えています。

絵葉書は、8月5日頃迄に各戸にお届けしますので、ご面倒でも宛名と簡単なメッセージを書いて、出来るだけ早くご投函頂きますようお願いいたします。尚、その際の切手代(1枚につき50円)は、恐縮ですがそれぞれのお宅でご負担下さいますようお願いいたします。

## ユウガオの育ちは いかがですか

ユウガオは順調に育っていますか。今年は、今まで以上に多くのお宅の軒先で花等が育てられている様に見受けられます。

ところで、ユウガオを育てて下さっている場合、生長の早い場合はそろそろ小さな蕾をつけ始めているの頃ではないかなと思っています。

つるが長く伸びるので、支柱を継ぎ足したり、大きなものにしたたり、いろいろ工夫をしていらっしゃる様子も拝見します。

前号にも書きましたが、つるをあまり伸ばしたくない場合は、つるの先端を指先でつまんで切ってやって下さい。そうすれば葉柄の付け根から新しいつるを出して、全体がこんもりとした株に仕上がるだろうと思われれます。

なお、つまくいけば秋の終わり頃まで咲き続けますから時々施肥もお願いたします。

